おくのほそ道（種の浜）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

十六日、①空霽れたれば、ますほの小貝拾はんと、種の浜に舟を走す。海上七里あり。天屋なにがしといふ者、破籠・小竹筒など②細やかにしたためさせ、僕あまた舟に取り乗せて、(1)追ひ風ときの間に吹き着きぬ。

浜は(2)僅かなる海人の小家にて、ア侘しき法花寺あり。ここに茶を飲み、酒を温めて、夕暮れの寂しさ、(3)感に堪へたり。

寂しさや須磨にかちイたる浜の秋

波の間や小貝に混じる(4)萩の塵

その日のあらまし、等栽に筆を取らせて寺に残す。

問一　波線部ア「侘しき」、イ「たる」をそれぞれ文法的に説明しなさい。

問二　傍線部①、②を現代語訳しなさい。

問三　点線部(1)の解釈として最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア　追い風を受けて、わずかな時間で浜にたどりついた。
イ　追い風が吹くほどのわずかな時間で浜にたどりついた。
ウ　追い風がわずかの間吹き抜けていた。
エ　追い風はわずかな時間しか吹かず、浜にたどりつかなかった。

問四　点線部(2)「僅かなる海人の小家」とはどのようなものか。簡潔に説明しなさい。

問五　点線部(3)「感に堪へたり」とは、ここではどのような意味か。説明しなさい。

問六　「波の間や」の句について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

１　季語と季節を答えなさい。

２　点線部(4)「萩の塵」とは何か。五文字以内で答えなさい。

問七　この日の芭蕉の行動として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　一日の予定を天屋なにがしという者に細かく書き記させた。
イ　小貝を拾おうと、法華宗の寺から須磨へ舟に乗って出かけた。
ウ　漁師からふるまわれた酒を、従者たちは口にしたが、芭蕉は茶だけを飲んだ。
エ　夕暮れの寂しさの中、萩の花びらと小貝がまじる波の間を見て句を詠んだ。

問 七	問 六	問 五	問 四	問 三	問 二	問 一
	1				①	ア
	季語					
	季節					
	2					
					②	イ

学 年
組
番 号
氏 名
得 点

おくのほそ道（種の浜）　＊

〔出題の意図と留意点〕　文章の背景にある和歌や古典文学への理解と、季語や基本語の読みを確認する。そのうえで、作者がそれぞれの句に込めた心情を問う。

☆解答例と配点

問一　**ア**　形容詞シク活用連体形　**イ**　完了の助動詞「たり」の連体形　〈3点×2〉

問二　①　空が晴れたので　②　こまごまと用意をさせて　〈5点×2〉

問三　ア〈4点〉

問四　漁師の住む粗末で小さな家。〈8点〉

問五　侘しい法華宗の寺で茶や酒を飲みながら迎える夕暮れの寂しさは、非常に感動的であった、という意味。〈10点〉

問六　**1**　**季語**　萩　**季節**　秋　〈2点×2〉　**2**　萩の花（萩の花びら）〈3点〉

問七　エ　〈5点〉

計50点